

2018 年度

中国留学報告書

実習先：北京師範大学

実習期間：8月27日（月）～1月7日（月）

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21017037
金田渚沙

目次

1	留学先及び実習期間	2
2	留学先概要	2
3	留学目的	2
4	留学内容	2
	4 - 1 留学のスケジュール	3
	4 - 2 留学の詳細	3
5	当初目的・目標への達成度	4
6	反省・課題	4
	謝辞	5

付録

	留学日誌	5
--	------	---

1 留学先及び実習期間

留学先：北京師範大学 漢語文化学院

留学期間：平成30年8月27日（月）～平成31年1月7日（月）

※帰国は1月7日（月）

2 留学先概要

(1) 大学について

北京師範大学は中国政府に指定された重要大学の1つだ。首都である北京市の海淀区という場所に位置している。

現在、在籍している学生は24700余人であり、学部生10260余人、大学院生12891余人、長期留学生1600余人である。北京師範大学は教育者を育成するといった教育分野に特に優れている大学である。また国際交流にも力を入れており、国際的に多くの大学と提携している。そのため135の国や地域から来た約4700人余りの留学生を受け入れている。

(2) 大学で行われている教育について

今回お世話になる漢語文化学院は1クラスの人数が15人程度と、大きくなりすぎないように配慮がなされており、充実した環境の中で学習を行うことができる。また先生方のサポートはとても熱心であり、1人1人の質問にも丁寧に答えてくれる。クラスはテストによって分けられ、自分のレベルに合ったクラスで授業をすることができる。そのため無理なく中国語を勉強することができる。授業はスピーキング、リスニング、リーディングの3教科で構成されており、その他に週に一度中国文化についての授業を受ける。また1週間の修学旅行があるため、北京以外の地域についても知ることができ、より中国文化の理解を深めることができる。

3 留学目的

今回の留学目的は、語学力の向上と中国文化の理解を深める事であった。中国語しか話せない環境の中に身を置くことは「中国語で会話をする」という私の目的を叶えるために必要であると感じた。耳で聞いて声に出して話すという学習の仕方が語学を習得する上でとても重要な事だと留学に行ってから改めて感じた。また実際に現地に行き生活をする事で、自分の目で中国の現状を知り、文化を肌で感じるができると思った。

4 留学内容

以下から留学の内容を記述する。

留学期間中に行った活動の詳細は付録に記載する。

4 - 1 留学のスケジュール

留学中のスケジュールは以下のとおりである。

月	日 (曜日)	午前	午後
8	27 (月)		北京到着、入寮
	30 (木)	クラス分け試験	
	31 (金)	留学生入学式	
9	8 (土)		中日学生交流会
	2 (日)	クラス分け試験結果発表	
	3 (月)	授業開始	
	22 (土)	内モンゴル旅行	
	23 (日)		
	24 (月)		
11	1 (木)		中間テスト
	2 (金)		
	12 (月)	修学旅行	
	13 (火)		
	14 (水)		
	15 (木)		
	16 (金)		
	17 (土)		
	18 (日)		
12	27 (木)	期末テスト	
	28 (金)		
1	4 (金)		卒業式
	7 (月)	帰国	

4 - 2 留学の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

i) クラス分け試験

クラスはこのクラス分け試験によって決められる。試験は筆記、聞き取り、会話の3つで採点される。1人1人に合った内容や進度で授業をするために行われるものだ。

ii) 留学生入学式

北京師範大学についての紹介や、大学で学ぶ上での規則について説明があった。

iii) 中日学生交流会

日本語学科で学ぶ2年生の中国の学生と交流会を行った。歌やダンス、ゲームなど互いに出し物を披露し合った。さらに交流を深めるために、中国と日本の学生を少人数グループに分けて話し合う時間を作った。

iv) 内モンゴル旅行

内モンゴルとは中国の北の方に位置し、モンゴルに隣接している地域である。移動時間はバスで片道約9時間から10時間であった。気温は北京より寒く、夜は特に冷え込む。貴重な体験を沢山することが出来る。

v) 修学旅行

江西省という場所に一週間修学旅行に行った。移動は寝台列車だった。北京とは異なる地域に行ったことで中国文化についての知識の幅が広がった。

5 当初目的・目標への達成度

今回の留学の目的の達成度について、それぞれまとめる。

i) 語学力の向上

授業ではスピーキング、リスニング、リーディングとそれぞれ1つの科目を90分間で集中的に学ぶため、より中国語を理解することができた。また日常的に中国語を聞いて会話をするため、状況や場面に応じて中国語を使う力がつき、ボキャブラリーの数も沢山増えた。

ii) 中国文化の理解を深める

中国の人の暮らしを実際に体験することで、中国文化についての知識は自然に身についた。また食事や旅行など文化を肌で感じる事も出来た。それによって「異文化」に対して自分がどのように向き合っていくのか考えさせられた。

6 反省・課題

中国で過ごした約4か月間の中で中国語はもちろん、自分自身も大きく成長することが出来た。反省点は日本語学科の中国の学生に自分から進んで連絡をすることが出来なかった点である。互いに言語を教え合う関係はとても素晴らしいと思う。何事も自分から行動を起こさなければ何も始まらないのだと改めて感じた。

留学に行ったことで語学に対するモチベーションがより上がった。外国の留学生と一緒に勉強した事は、学習の刺激にもなった。また大学の授業で自分の欠点を明確に見つけることが出来た。留学に行ったら終わりではなく、この経験をバネにこれからも中国語の勉強に

励みたいと思う。

謝辞

私たちはたくさんの人の支えによって、このような素晴らしい体験が出来ました。留学するにあたって私たちに奨学金を給付して下さい本当にありがとうございました。そして中国語の授業や留学の事前学習など、とても熱心に指導して下さいった區建英先生、佐藤若菜先生、留学の手続きを行って下さった事務の方々、留学を応援してくれた家族、一緒に留学に行き共に支え合った13人の仲間から感謝申し上げます。また北京師範大学で私たちのサポートをして下さった黄微さん、先生方にも感謝申し上げます。ありがとうございました。

付録：研修日誌

8月27日 月曜日 午後
出発 1435 新潟空港
担当 區 建英先生
内容 ・新潟空港に集合 ・新潟空港から成田空港まで飛行機で移動 ・成田空港から北京空港まで飛行機で移動 ・北京空港で入国審査 ・北京空港から北京師範大学までバスで移動

移動の所感

成田空港での乗り換えや、慣れない入国手続きに焦りや不安があった。移動時間が長く、北京師範大学についた時には23時近くになっていた。これから始まる中国留学への期待、そして不安や緊張で胸がいっぱいだった。

9月8日 土曜日 午後
中日学生交流会
場所 主楼
内容 ・自己紹介 ・出し物を披露 ・オリエンテーション

交流会の所感

初めて日本語学科を専攻している学生と会うということで、少し緊張していた。しかしお互いに自己紹介をしたり出し物を披露したりしていく中で仲が深まっていったと感じた。また少人数グループを作って話し合う時間を設けたことで、相手についてより深く知ることが出来た。

9月22日(土)～24日(月)
内モンゴル旅行
場所 内モンゴル
内容 ・北京師範大学から内モンゴルまでバスで移動 ・1日目、乗馬体験やゲルに宿泊 ・2日目、砂漠でアスレチックやラクダに乗る体験 ・3日目、内モンゴルの博物館に行く

内モンゴル旅行での所感

バスでの移動時間がとても長く、移動するだけでとても疲れた。ゲルでの宿泊、砂漠でのアスレチックやラクダに乗るといった体験はとても新鮮で貴重な体験だった。北京で見ることのできない景色を沢山見ることが出来た。

11月1日(木)・2日(金)
中間テスト
内容 スピーキング、リスニング、リーディングの3教科のテスト。

中間テストの所感

初めてのテストであったため不安もあり緊張していた。しかし実際にテストを受けてみて普段の授業をしっかり受け、予習復習を行っていれば高得点をとることが出来るテストだと感じた。

11月12日(月)～11月18日(日)
修学旅行
場所 江西省
内容

江西省に修学旅行に行く。北京以外の地域に行くことで中国文化の理解を深める。

修学旅行の所感

江西省は北京と食べ物や気温が異なっていてとても興味深かった。陶器が有名な地域であるため博物館で様々な陶器を見物したり、陶瓷大学というところに行き陶芸体験をしたりした。中国の様々な文化をもっと知りたいと思った。



